

発行日：2013年4月25日

発行：地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター



総長 福澤 正洋

小児がん拠点病院に指定されました

「がん」は小児の病死原因の第一位です。小児がん患者さんは、治療後の経過が成人に比べて長いことに加えて、晚期合併症や、患者さんの発育や教育に関する問題等、成人のがん患者さんとは異なる問題を抱えているにも関わらず、これまでのがん対策は成人のがんを中心に進められ、小児がん対策は遅れています。こうしたことから、今回、「がん対策推進基本計画」(2012年6月閣議決定)では小児がんが重点的に取り組むべき課題に掲げされました。

特に、小児がんの年間発症患者数は2,000～2,500人と少なく、全国で小児がんを扱う施設は

約200程度と推定され、医療機関によっては少ない経験の中で適切な医療が行われていないことが懸念されます。こうした状況を改善するため、小児がん患者さんとその家族が安心して適切な医療や支援を受けられるよう「小児がん拠点病院」として2013年2月に全国で15機関が選定され、当センターも近畿ブロックの拠点病院の一つとして指定されました。今後とも近畿および全国からの小児がん患者さんを受け入れるとともに、小児がん相談窓口、ホットライン設置、新ファミリーハウス開設を行うなど小児がん患者さんの支援体制を強化して行く予定ですので支援の程を宜しくお願い申し上げます。



特 集

小児がん医療の軌跡と今後に向けての取組み

1. 実績と受け入れ体制

毎年、全国で2,000～2,500人の子ども達が新たに小児がんと診断されています（このうち4割が白血病）。大阪府内では例年約150人の子ども達が小児がんと診断されており、母子医療センターはその1/3の約50人を診断・治療しています。また、造血幹細胞移植を年間30～40例行っており、小児を対象とする移植実績は日本一です。

がんの子ども達が早期に診断され、適切な治療を受けることができるよう、患者相談窓口、小児がん・白血病ホットラインを開設しました。患者相談窓口では、患者さんからの様々な相談（診断・治療以外のことにも）に応じています。ホットラインは現在のところ医療者を対象としており、小児がんが疑われる患者さんを迅速に受け入れるために24時間体制で電話相談に対応しています。

基本理念

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さん中心の、相互信頼の立場に立った、質の高い医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

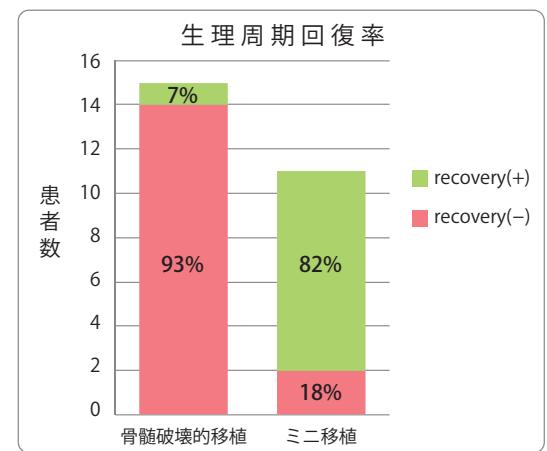
2. 治療成績の向上と晚期合併症

化学療法（抗がん剤治療）、手術、放射線治療の進歩は目を見張るものがあります。また骨髄移植に代表される造血幹細胞移植の発展も治療成績の向上に大きく貢献し、小児がんは不治の病ではなく、治せる時代になりました（小児がん全体で約7割の子ども達が長期寛解を維持できるようになりました）。

その一方で、小児がん経験者は様々な治療関連合併症に悩まされています。小児がんを克服した子ども達にとって、成長障害（身長が思うように伸びない）、内分泌障害（甲状腺機能低下症など）、不妊症などに代表される晚期合併症は、その後の人生に大きな影響を及ぼします。私たちは、長期フォローアップ外来で晚期合併症に対応しながら、このような晚期合併症を軽減・回避する目的で骨髄非破壊的移植（通称：ミニ移植）を取り組んでいます。

3. ミニ移植

全身放射線照射や強力な大量化学療法を前処置として行う従来型の骨髄破壊的移植は晚期合併症を避けることができませんが、移植細胞が生着するために必要最低限の前処置を行うミニ移植は、前処置による細胞・組織傷害が軽度であるため、晚期合併症を軽減・回避する事が可能です。ミニ移植は、高齢や臓器障害などの合併症のため骨髄破壊的移植の適応にならない成人にも移植を可能にするために開発されたため、小児に対して積極的には行われていません。当センターは2000年からミニ移植を導入し、最近4年間は造血幹細胞移植全例をミニ移植で行っています。移植細胞による免疫学的抗腫瘍効果に期待する移植法がミニ移植なので、効果的な免疫反応が得られるドナー・移植細胞を選択することが必要です。母子医療センターにおける白血病に対するミニ移植の治療成績は、骨髄破壊的移植と比較して遜色がありません。また、女性の場合、骨髄破壊的移植後に生理が回復することはほとんどありませんが、ミニ移植後には8割の生理周期回復が見られました。



4. 晚期合併症なき治癒

数十年前には何としても小児がんを治すことが大命題でしたが、今日では「晚期合併症なき治癒」を目指すことが重要な課題となっています。私たちはこの課題に答えを出すべく、むやみに治療を強化するのではなく、晚期合併症を軽減・回避するために、ミニ移植に加えて、がんワクチン療法など新しい治療法の開発に積極的に取り組んでいます。子ども達はがんを克服した後、成長し成人して次の世代を担うことになります。がんを治すことはもちろんのこと、子ども達に実りある人生を歩んで頂くために、私たち母子医療センターは努力を惜しません。

（血液・腫瘍科 主任部長 井上 雅美）

小児がん・白血病ホットライン

当センターでは、「小児がん・白血病ホットライン」を開設しています。この「小児がん・白血病ホットライン」は医療機関・医療者を対象とする24時間体制の直通電話で、小児がん・白血病症例のご相談、ご紹介に血液・腫瘍科医師が対応させて頂きます。

0725-57-7677
※24時間受付直通電話

（患者さん・ご家族からの直接のご相談はご容赦ください）

腎・代謝科

主任部長

山本 勝輔

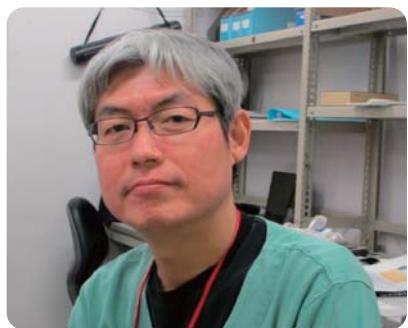


市中病院勤務を経て、約10年ぶりにセンターに戻ってまいりました。よろしくお願ひいたします。

麻酔科

主任部長

谷口 晃啓



専門領域は小児麻酔、小児集中治療、産科麻酔で、母子医療センターは今回で3度目になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

リハビリテーション科

部長

田村 太資



整形外科からリハビリテーション科として独立し、その部長を務めさせていただきます。今まで同様、整形外科・リハビリテーション部門の両方を担当します。宜しくお願い致します。

耳鼻咽喉科

部長

西村 洋



前任の佐野光仁部長の定年退職に伴い、この4月より耳鼻咽喉科部長を拝命しました西村です。約1年半前に赴任いたしまして当院での小児人工内耳治療を開始しました。佐野前部長の功績を引き継ぎつつそれに小児人工内耳を加え、当センターでの小児耳鼻咽喉科医療を発展させていきたいと存じます。

集中治療科

部長

竹内 宗之



4月より集中治療科として独立しました。地域にも貢献できる、閉鎖的(closed)でない independentな PICUとして頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

検査科

主任部長

竹内 真



4月より検査科の主任部長になりました竹内真(たけうちまこと)と申します。小児科医および病理医の経験を生かし、「地域とともに歩む検査科」を目指し、医師および検査技師、職員が力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。よろしくお願いします。

4月8日より「患者相談窓口」を設置しました。

患者さんの相談業務は現在でもセンター内の各部門で行っているのですが、患者さんからはどこに行けばよいのかわかりづらく、気軽に相談ができにくくなっていました。



石見 和世
(小児看護専門看護師) ※電話相談は行っておりません。



患者相談窓口直通電話

0725-56-7355

平成25年度イブニングセミナー

毎月 第1木曜日 17:30~18:30 場所: 研究所大会議室

昨年に引き続き、当センターで行っている医療や小児や妊婦に多い疾患について診療科によるセミナーを開催いたします。事前申込みは不要です。どうぞお気軽にご参加ください。

2013. 5. 9	早産児の長期フォローアップについて	新生児科	平野 慎也
2013. 6. 6	形成外科の診療ー対象疾患と治療	形成外科	吉岡 直人
2013. 7. 4	内科医として知っておきたい内科合併妊娠の見方	母性内科	中西 功
2013. 9. 5	小児麻酔の術前評価と準備	麻酔科	木内 恵子
2013.10. 3	小児の画像診断	放射線科	西川 正則
2013.11. 7	子どものこころの相談について	子どものこころの診療科	小杉 恵
2013.12. 5	眼が二つあることの不思議	眼科	初川 嘉一
2014. 1. 9	狭頭症の診断と外科治療	脳神経外科	山田 淳二
2014. 2. 6	乳幼児の突然死 検査科マススクリーニング	検査科	松岡 圭子 稲岡 一考
2014. 3. 6	先天性心疾患児に対する自立支援の現状と展望	小児循環器科	萱谷 太

交通のご案内



この広報誌に関するご意見・ご要望は
FAXにて地域医療連携室にお寄せください

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター

地域医療連携室

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840
TEL: 0725-56-9890 (直通)・0725-56-1220 (代表)
FAX: 0725-56-7785・0725-56-5605 (初診受付専用)
<http://www.mch.pref.osaka.jp>